あきたSDGsアワード2022　応募用紙

■応募者の基本情報

（フリガナ） 応募者名	ダイセンシリツオオマガリミナミチュウガッコウ 大仙市立大曲南中学校			
代表者	役職	校長	（フリガナ） 氏名	シマダ　サトル 島田　智
所在地	〒014－1412 大仙市藤木字上野中70－2			
業種	教育機関			
事業者HP	http://www.edu.city.daisen.akita.jp/~om-minamityu/			

■担当者情報

所属	大仙市立大曲南中学校		
役職	校長	（フリガナ） 氏名	シマダ　サトル 島田　智
Email	satoru-shimada@edu.city.daisen.akita.jp	電話番号	0187-65-2001

■取組の概要

取組のタイトル	SDGsを達成する人づくり					
貢献するSDGsのゴール （○を記入）	1	2	3	4	5	6
	○			○		
	7	8	9	10	11	12
	○	○		○		○
	13	14	15	16	17	
	○		○	○	○	
取組の概要	１年生は主に「食育」に取り組んでいる。持続可能な生産と消費に係る学習をテーマとし、地産地消、食品ロスの削減、フードマイレージ等を考慮した買い物や消費行動ができるようになることを目的とした。２年生では主に「エネルギー学習」に取り組んでいる。「持続可能なエネルギー供給に係る学習」をテーマとし、環境問題と、省エネや再生可能エネルギーの利用との関わりについて学び、地球温暖化を防ぐ具体的な方策ついての考えをもち、行動ができるようになることを目的とした。３年生では主に「国際理解」に取り組んでいる。「ICTを利用した国際教育」をテーマに、オンラインによる海外の中学生との交流を通じて、文化、伝統、平和、防災等について学び、グローバルに考え、多様性を踏まえた行動ができるようなることを目的とした。					
取組の概要が分かるHP、SNS等があればURLを記載	http://www.edu.city.daisen.akita.jp/~om-minamityu/					

■参考資料の添付

☐有り　☑無し（該当する方に☑）		
「有り」の場合	資料	枚
	資料タイトル	
	①	
	②	
	③	

■取組の詳細　※平易な表現で簡潔に記述願います。また，図表等の貼り付けはご遠慮ください。

a.取組の目的・背景（300字以内）

本校では全教育課程を通して、SDGs17の目標全体に、目標4「質の高い教育をみんなに」、ターゲット4-7「持続可能な開発とグローバル・シチズンシップのための教育」の実践をとおして迫ることをねらいとしている。持続可能な開発のための教育（ESD）を学校経営の柱とし、SDGsの達成を視野に入れながら、各教科等横断的な視点でESDを推進している。ESDでは、特に「食」、「エネルギー」、「国際理解」の分野からアプローチし、様々な体験活動を系統的に取り入れ、考え、議論し、行動することで、持続可能な社会の創り手を育てる。そして、“ESD for 2030”に向けて実践を重ね、SDGsの達成に迫りたい。

b.取組の具体的な内容（3000字以内）

本校は，平成22年度に中学校で県内唯一のユネスコスクールに認定され，「考え，行動する環境教育」に取り組んできた。その中で，近隣の小学校，高等学校，地域社会，関係機関，更には地域外の中学校との「交流と連携」を充実させながら，ESDの視点を取り入れた教育活動を展開している。平成27年度から，大学や海外のユネスコスクール等との交流にも取り組み，更なる深化・充実を図っているところである。また，各学年における総合的な学習の時間の柱として，「食育」「エネルギー教育」「国際教育」を位置付け，体験を通した思考力・判断力・表現力等の育成を重点とした「社会的実践力」を育むことで，「生きる力」の育成に資することを目指している。特に，食育に関する活動では，給食の残飯由来の肥料を活用した野菜栽培や地域と協力した食品ロスの呼びかけなどの取組を継続して実践しており，ゴミ削減，環境美化などの観点に繋がる，特徴的な取組となっている。

1　具体的な取組

（1）地産地消の野菜栽培（平成23年から）

学校給食センターの残飯由来の肥料を使って，JAの協力の下，野菜栽培を行っている。収穫した野菜は，講師を招いて省エネクッキングで調理して試食した。また，平成28年からは，これらの活動から食品ロスに興味をもった生徒たちが，近隣のスーパーの食品ロス防止の状況を調べたり，フードバンクに食品を持ち込んで相対的貧困について学んだりした。

給食由来の有機肥料を使った野菜栽培をだけではなく，地産地消や食とエネルギーの関係，フードロス，貧困問題等，SDGsの多くの目標に関連した活動を行っている。大曲農業高等学校の博士号教員から有機肥料と微生物についての講話をいただいたり，省エネクッキングの講師を招いたり，多くの方々とつながることができる活動であった。

地域の主産業である農業への理解が高まるとともに，地産地消や残さず食べることの大切さを実感できる。そのことが地域愛へつながり，地域の環境美化意識の高まりやSDGs達成に向かう意欲につながった。

（2）アルミ缶・古紙回収（20年以上前から）

PTAの事業だが，事前に学区内の全ての家庭にチラシを配り，地域全体から，中学生と保護者が協力してアルミ缶と古紙を回収した。収益は，学校祭を運営する資金の一部とした。

常時活動として，1年中アルミ缶回収は行っているが，夏休み中の土曜日に，地域全体に呼びかけ，地域の方々にも協力いただいて，集中的にアルミ缶・古紙回収を行っている。今年度は103,970円の収益があった。

中学生がリサイクルに取り組んでいるという事実が，家庭や地域に好印象を与え，リサイクルが全地域に広がっている。地域全体でリサイクルに取り組むことで，地域だけではなく、川や海を通じた世界の環境美化につながっている。

（3）　親水公園クリーンアップ（20年以上前から）

毎年，地域の方々と一緒に，学校近くの親水公園のクリーンアップ活動を実施している。コロナ前は，鮎や蟹汁の試食も行われ，地域とのコミュニケーションを深めることができた。

地域の方々と協力して，学区内にある親水公園のクリーンアップを年1回行っている。20年以上続いている活動であるが，近年はPTA活動ともタイアップし，全校生徒と保護者が関わることができるよう日程調整している。過去には年に複数回行われたこともあり，終了後に地域の方々と一緒に、鮎の塩焼きや蟹汁（川蟹）の試食を楽しんだこともあった。

地域の方々と共に活動することで，中学生が地域の環境を整えることに一役買っている。また，コミュニケーションを深めることで，みんなで地域をもっときれいにしていこうという意識が高くなり，更なる環境美化活動につなげることもできた。

（4）小・中合同クリーンアップ（20年以上前から）

中学校区の2小学校と連携し，縦割り活動のクリーンアップ活動を行っている。主な活動は，道路端のごみ拾いで，中学生は事前に小学校に赴き，当日の段取りを確認している。毎年，多くのごみを回収し，地域の環境美化に貢献している。

夏休みの初日，朝6時30分から地区ごとにラジオ体操を行い，その後，ごみ拾いや地域の集会所の清掃などを行っている。中学生がリードし，小学生と一緒に行う，小・中連携した活動である。時には地域の方々が協力してくださる場面が見られることもある。

地域がきれいになるだけではなく，小学生と一緒に活動をすることで，環境美化に対する一体感が生まれ，自分の住む地域の環境をよりよいものにしていこうとする意欲の高まりが見られる。

（5）ワールド・気候スタディーズESD/SDGs（令和4年度）

日本キリバス協会のケンタロ・オノ氏を講師に迎え，気候変動下等におけるキリバスの現状を伝えてもらい，自分たちはキリバスに対して何ができるのかを，ペルソナワークで考えた。その後，キリバスの海とつながっている本校周辺の川のクリーンアップを行い，キリバスの中学生とのオンライン交流を行った。

本活動は，東北地方ESD活動支援センターのプログラムを，本校で実施したものである。講演だけで終わらずに，講演の内容を生かしたワークショップを行うことで，キリバスで起きていることを自分事として捉えることができる。さらに，実際にオンライン交流を行うことで，気候変動等の問題は，世界全体で取り組むべき課題であることを実感することができる。

「Think Globally, Act Locally」の精神の下，学んだことから自分は何ができるのかを考えるなどの意識変容につながり，さらに，家庭でできることや地域でできることに主体的に取り組む行動変容につながっている。

（7）ワールドピースゲーム（令和4年度）

自然、エネルギー、気候変動、経済、人権、金融等から世界の平和を考えるワークショップ（１１月１８日現在実施中）

講演会の実施（平成22年度から）

環境問題を演題とした講演会を実施し，世界の環境を知る（Think Globally）ことで自分の行動変容(Act Locally)につなげた。

環境分野で世界的に活躍する講師を招聘し，世界の現状を伝えてもらうことで，持続可能な開発の必要性やSDGs達成の意義を，具体的に知ることができる。同時に，自分たちができることは何なのかを考え，実践につなげることができる。

〇主な講演講師と演題

平成22年　松本　英揮　氏
　　「地球環境から親父の子育て」
平成23年　松本　紀生　氏
　　「アラスカフォトライブ」
平成24年　藤原　幸一　氏（秋田県出身）
　　「地球の声が聞こえる」
平成25年　中村　征夫　氏（秋田県出身）
　　「命めぐる海からのメッセージ」
令和3年度　藤原　幸一　氏（秋田県出身）
　　「プラスチック惑星・地球」
令和4年度　佐藤　有希　氏（ABS秋田放送アナウンサー）
　　「SDGsってなあに？」

講演会を機に，自分たちは何ができるのかを考え，SDGsの達成へとつなげた。

※これらの活動は、本校の教育課程に位置付けられ、ボランティア活動等としてではなく、学習の一環として行われている。

■今後の展望

SDGsの認知度が上がっている現在ではあるが、単にエコ活動をすればSDGsだという安易な考えが多く見られる。学校教育としてSDGsの達成に資することは、目標4が示しているとおり非常に重要なことであるとの認識の下、「持続可能な社会について考え実践する力」を生徒に身に付けさせることが肝要であると思われる。これまで行ってきた本校の取組をブラッシュアップし、SDGsに関する知識、SDGs達成に向かう意欲、課題解決方法の考案、行動変容、実践力等が向上するプログラムを実施していきたい。

また、本校の取組を積極的に発信することで、「学校でできるSDGs」を広く提案していきたい。